授業つくり研修講座　実践レポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中原小学校　大塚　麻子

特別支援級

・実践のポイント「日記・作文指導を通して書く力をつける」

実践内容（成果）

〇作文を視写する。

・他人の書いた作文を視写をして、どこから書き始めるか、「」の使い方など作文の基本的な「書き方のルール」について学ばせた。

・支援級の児童は語彙が少なく、表現力が乏しいので他人の文章を読んで様々な表現があるということも学んだ。

〇書くテーマを決める

・テーマは、遠足、校外活動について、土日の出来事など

・誰に向けて書くか決める。

主にお母さんや友だちに読んでもらうために書かせた。そのため、文章が伝わりやすいように日記では、「～だよ。」など口語体で書かせた。

〇書くことをしぼる

テーマが決まっても何を書いていいかわからない児童が多いので、どんなことを書くか書くポイントについて話し合い、メモをして、それをもとに書かせた。低学年の児童は、こちらからインタビューして聞き出し、その内容をメモして文章にした。

〇書いた文を友だちと読み合う

　友だちに向けた文は、お互い読み合ってコメントを言い合ったり、書いたりした。また、「～が楽しかったよ。」だけで終わってしまった低学年児童の表現に対して、高学年の児童からアドバイスをさせた。「もう少し詳しくそのときのことを書けないかな。他にどんなふうに書いたらよいかな。」と高学年の児童に聞くと「こんな表現はどうかな。」とアドバイスができた。

振り返り（課題）

〇作文が説明文のようになってしまう

　気持ちを表す言葉がただ「～して楽しかったです。」で終わってしまい、そのときの詳しい描写を表す文章がなかなか書けなかった。支援級の児童は語彙が少ないので、表現の乏しい文章になってしまう。今後の課題としては、どうしたらもっと豊かな表現での文章が書けるようになるのか、その手立てを研究していきたい。